

都留文科大学報

第122号

2013年
7月17日(水)

編集 都留文科大学広報委員会

〒402-8555 山梨県都留市田原 3-8-1 都留文科大学内
☎0554-43-4341 URL: <http://www.tsuru.ac.jp/>



平成24年度卒業式を終えて



学生表彰受賞者



第44回つる子どもまつり



名誉教授称号授与

都留文科大学入学式 2

入学式の様子 社会学科 三木 駿太
国文学科 岡崎ななみ
学長より新入生を迎える言葉

特集 理事長交代にあたって 4

西室陽一前理事長
大谷哲夫新理事長

新教員紹介 文大に着任するにあたって 6

初等教育学科 岡野恵司講師
国文学科 加藤敦子准教授
社会学科 田中里美教授
情報センター 黒崎茂樹特任准教授
国際交流センター 岡部真理子特任准教授

学外研究報告 11

初等教育学科 藤本恵准教授
社会学科 平林祐子教授
比較文科学科 伊香俊哉教授

昨年度の就職状況を振り返る 14

キャリア支援センター長 鶴田清司教授

「学生による授業アンケート」の結果から 16

FD委員会委員長 田中昌弥教授

国際交流センター新設について 18

国際交流センター長 新保祐司教授

講演会だより 19

国文学科
比較文化学科
地域交流研究センター

文大だより 22

卒業式の様子
平成24年度卒業生・修了者数及び平成25年度入学試験状況
学生表彰制度による表彰
つる子どもまつり
つる白熱教室
公務員の仕事見学バスツアー
同窓生との模擬面接試験体験会
佐野夢加かけっこ教室
オープンキャンパス情報
名誉教授の称号授与 楠元六男先生、後藤道夫先生
千葉立也先生

人事異動・お詫びと訂正

編集後記

本 ぶんだい堂

都留文科大学入学式

今年の入学者は814名

4月5日（金）に、都の杜うぐいすホールにおいて、入学式が行われました。学科別に午前の部（初等教育学科、社会学科、大学院等）と午後の部（国文学科、英文学科、比較文化学科）の2部制で実施いたしました。



入学者の内訳としては、初等教育学科195名、国文学科142名、英文学科141名、社会学科現代社会専攻91名、同学科環境・コミュニティ創造専攻72名、比較文化学科128名、文学専攻科5名、大学院文学研究科13名、学部3年次編入27名であり、学部、専攻科及び大学院等814名の入学が許可されました。

会場の大ホールは入学者でほぼ満員、その式典の様子を隣の小ホールのスクリーンで保護者が見守る中、公立大学法人都留文科大学の大谷哲夫理事長による挨拶により式が始まりました。続いて加藤祐三学長の新生を迎える言葉、設立団体の小林義光都留市長が祝辞を述べられました。また、新入生代表として、三木駿太さん（午前の部：社会学科）は「様々なことに挑戦し、多くの仲間たちと切磋琢磨し合う中で、大きく成長していきたい」と、また、岡崎ななみさん（午後の部：国文学科）は「輝く未来にするための努力を怠らず、自らの人生を切り拓いていきたい」とそれぞれの決意を述べてくれました。

式の最後には、本学管弦楽団吉田悟氏の指揮により、本学学生歌の「花のかげ」を全員で合唱し、厳粛なうちに式を終了しました。

新入生の言葉



社会学科 三木駿太

うらかな春の陽射しに誘われて、桜もほころび始めるこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式を迎えられたことを大変嬉しく思います。これから四年間の日々で、新しい仲間と共に学び、互いに高め合い、また今まで支えてくださった方々に感謝しながら、大学生活を掛け替えのないものにすべく、一日一日を大切に過ごしたいと思います。

昨年の夏、私たちの先輩である山本美香さんがシリアで亡くなりました。山本さんは平和な日本しか知らない私たちに、遠く離れた世界の厳しい現状や、現実に向き合う人々の姿を伝えてくれました。こうした国や地域には生きることさえままならない、私たちに想像もできない状況に置かれた人たちがいます。それに対して、私たちの今ある環境、毎日ご飯を食べ、布団で眠り、学校で勉強したり、友達と過ごしたりできることは、広い世界の中では当たり前ではなく、とてもありがたい環境なのだとことを忘れてはいけなく、その心も教えてくれました。

日本国内に目を向けると、確かに、長引く不況とデフレの中で経

済が停滞し、格差の広がりやグローバル化の波にどう立ち向かうかも大きな問題となっています。私たち若者の就職も非常に厳しい状況にあります。しかし、私たちはこのように大学で学ぶこともできます。日々の生活や生命を脅かされているわけでもありません。自分たちの努力次第で道を拓いていけるという意味では、恵まれた環境にあるとも言えます。

このような混沌とした時代だからこそ、私たちは今何をすべきかを考え、立ち向かっていかなければなりません。不安を抱え逃げ出したくなることもあるかもしれませんが、私たちにも山本さんのように、将来を切り拓いていくエネルギーやバイタリティーがあります。その力を発揮するために、主体的に学び、積極的に行動して、自分自身の可能性を最大限に広げていきたいと思っています。

都留文科大学は、全国各地から学生が集まり、地域の方々との交流も盛んです。この新しい環境で勉強だけでなく、部活動やサークル活動などさまざまなことに挑戦し、多くの仲間たちと切磋琢磨し合う中で、人間的にも大きく成長していきたいと考えています。

私たちは、自分自身を磨くうえで最適な場を得ることができました。このチャンスを活かすべく、高い志を抱き、一步一步確実に前進していくことを決意し、新入生のことばといたします。



国文学科 岡崎ななみ

やわらかな陽射しの降り注ぐ季節を迎え、春の息吹の感じられるこの佳き日に、伝統ある都留文科大学の入学式を迎えられたことを大変光栄に思います。私たちが、今この場にいられるのは、母校の先生方の熱心な指導や、家族の愛情、友人たちの励ましなど、多くの方々の支えのおかげです。そのことに感謝するとともに、大学生活をより充実したものにするため、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

昨年の八月、都留文科大学の卒業生である山本美香さんがシリアで凶弾に倒れました。山本さんは、自ら危険な地に足を踏み入れ、実際の体験を通して、私たちに大切なことを伝えてくれました。世界には、私たちよりも小さな子どもたちが銃を手にし、毎日戦っている国もあります。平和な日本で暮らし、戦争を経験したことのない私たちには、想像もできないほどの苦しい思いや、悲しい思いをしてきた子どもたちが、世界にはたくさんいます。その子どもたちは勉強したくてもできない環境にいるのです。しかし、私たちはこ

うして大学に入学し、今まで学んできたことの中で、好きなこと、興味を持ったことをさらに深く学ぶことができます。そんな恵まれた日々があることは、決して当たり前ではなく、とても幸せなのだとことを忘れてはいけなく、と教えてくれたのです。

日本の社会に目を向けると、私たち若者の就職難やグローバル化などさまざまな問題に直面しています。また、東日本大震災の影響は大きく、復興も思うように進んでいません。山積する問題は、私たちに大きな不安を与えます。しかし、私たちに大きな可能性もあります。また、十分に学べる素晴らしい環境があります。輝く未来にするための努力を怠らず、自らの人生を切り拓いていきたいと思っています。私たちは今、新しい環境で、期待と不安を胸に、夢を叶えるための大事な一歩を踏み出します。改めて、学ぶことができる幸せを噛みしめ、努力して参ります。

山本さんのように、世界で活躍する先輩が学んだこの都留文科大学で学べることを誇りに思います。全国からたくさんの学生が集まる豊かな環境のもとで、お互いに切磋琢磨しながら、新たな挑戦によって自分の世界を大きく広げ、さらに成長していきたいと思っています。そして、社会に貢献できるよう、日々精進していくことを決意し、新入生のことばといたします。

「切り拓く力」を 新入生を迎えることば(入学式 式辞)

都留文科大学学長 加藤祐三

みなさんの入学を心からお祝いします。

希望と期待に胸ふくらませていることでしょう。この気持ちを大切にしてください。

東日本大震災から2年が経ちました。みなさんのなかには、大震災で大切な人を失った人、人生観が変わった人も少なくないと思います。その傷はまだ癒えていません。

みなさんの活躍する時代は、価値観も社会システムも大きく変わるでしょう。その姿はまだ見えません。ただ、いつの時代においても未来は不透明で見えにくいものです。

未来が「どうなるか」に一定の見通しを持つ必要はあるものの、若いみなさんは「どうなるか」に注意を向けるより、むしろ「どうするか」の意思と思考力を育ててほしい。

人間には、見えないものを明らかにしたいという探究心や創造力が備わっています。こうして我々は文学・芸術・思想を生み、人文社会科学や科学技術を創造してきました。そして都市を作り、地の果てへ、大海原へ、さらに宇宙へと世界を拡げてきました。

新しい価値観や社会システムの創造には、若者の柔軟な発想と力が不可欠です。人間は一生をかけて成長しますが、なかでも青春時代に得たものの影響ははかり知れません。

次の自分を「切り拓く力」、そして未来を「切り拓く力」を身につけてください。都留文科大学は、この「切り拓く力」を伸ばすのにふさわしい環境に恵

まれています。

これまでの勉強は、ただ一つの答えを、いかに速く見つけ出すか、いかに多くの知識を得るかに重点があったはずです。その成果として、いまこうして入学式に臨んでいます。これからも知識を得る重要性はいうまでもありませんが、大学の学習には新たに次の3つが加わります。

第1に、学ぶ対象を自分で選ぶこと（その集大成の1つが必修の卒業論文の作成）。第2に、学ぶためのスキルを身に付けること。第3に、授業やゼミばかりでなく課外活動やアルバイト等を通じて、正解がない課題や複数の回答のある課題に取り組むことです。

学び方が大きく変わる、それが大学生活です。

教師や書物を通じて勉学に励む時、部活やボランティアで絆を深める時、そして遠く親元を離れ大人として社会とかかわる時、自分の内面から湧いてくる志や感覚を大切にしてほしい。それがたとえ漠然としていても、それこそが一人一人にとって個性的で本源的なものだからです。

全学的な組織として、図書館と5つのセンターがあります。図書館は自由な学習と創作活動に恰好な場所です。就職支援と就業意識の強化を目的とするキャリア支援センターもあります。いつでも相談に乗ってくれます。また健康に不安を感じたら保健センターがあります。気軽に寄ってください。

地域交流研究センターは「フィールドノート」の刊行など、地域と密着した活動をして



学長 加藤祐三

います。国際交流センターは、外国語教育の強化、海外留学の支援、外国人留学生への日本語教育という3つの役割を果たします。

情報センターのおかげで、全館どこからでも無線LANに接続できます。情報化時代に成長したみなさんは、ごく自然にICTを駆使できる人が多いでしょう。本学のホームページを見てください。カリキュラム、学科の特性、先生方の教育研究、学長ブログ等の閲覧と検索に利用してください。

みなさんが親元を離れて新しい生活を始める、この都留という大学町は、すばらしい市民と水と空気と緑に恵まれた、まさに「山紫水明の大学町」です。教職員と学生、学生同士、先輩と後輩、地域の人々との距離が近く、本格的な勉学はもとより、各地の多様な方言や文化を持つ人びととがおり、青年期の人間形成に大切な要素が随所にあります。

大学町・都留での4年間、自らと社会を「切り拓く力」を蓄え、それを基盤に、各人の個性に従い、のびやかに才能を開花させてください。若い力と情熱で、強く、しなやかな心と体を育ててほしい。これこそが世界の荒波や、不透明な未来に立ち向かう底力になります。

退任にあたって

前理事長 西室陽一

去る3月31日、4年の任期を終えて都留文科大学を去った。すでに85歳になっている。

(昭和3年2月15日生)

人生の最期の勤務が大学理事長とは私の人生で考えもしなかった現実が終わった。もともと実業界を目指し大学は経済を学び東京の人々の生活に直結する財を供給する東京ガスに職を得て70歳近くまで奉職した。その間、エネルギー革命 天然ガス時代に亘ってパイプラインの建設、ガス器具の熱量調整等々時代の先端を走ってきた。

ご案内の通り、私は故郷都留に生まれ育ち、18歳から上京し、1985年母が亡くなるまでは、東京暮らしであった。

母の死、仕事の終了、都留の地に帰る機会は多くなった。童謡“故郷”の2番「志を果たして いつの日にか帰らん 山はあおきふるさと 水は清きふるさと」はまさに私の真情であった。

しかし、伸び伸び悠悠自適、晴耕雨読の心境にも状態にもなれないものである。

平成18年、公立大学法人化議論が世間の潮流の中で文大をいかにすべきか、都留文科大学法人化検討委員会が平成18年11月に発足し委員長に委嘱された。

“法人化とは”“大学独立とは”初めて立ち入った大学の在り方、多くの委員の声を聞き又はじめて大学側委員である金子学長(当時)、後藤道夫教授にもお目にかかった。平成19年2月に法人化すべしとの結論を得て答申は終わった。

次いで、4月に法人準備委員会が発足し約1年、翌20年2月まで審議を行った。法人の定款、



前理事長 西室陽一

理事の数、各種審議会、教育研究審議会の規則、大学の骨格を如何にすべきか、教学の独立とは何か求める法律はいくつもの新しい勉強をさせられた。

平成20年2月に答申案を提出して、仕事は終わった。平和な日々が始まった。

すでに80歳をこえていた。平成20年3月には金子学長も退職し、大学は新しい公立法人に向けて胎動を始めていた。いや、むしろ20年3月には公立法人化すべく努力をしていた。その間、種々の問題が提起され法人化は一年繰りこされる事になった。平成20年10月にはれて、理事長予定者に任命された。

浅学非才、大学事情にうとい老齢の私に重役が努まるか、法人化に携わった一人として、お断りすることが出来るか、又学内事情も少しずつ垣間見るにつけても運営の難しさは明らかになっている。

しかし、故郷都留の一丁目一番地の大学の問題に敵前逃亡の如きも許されざるものか。

理事長を内諾した。20年10

月末から21年4月法人化に向けて、私、今谷学長、高田・福田両副学長、椎事務局長による法人運営会議がもたれた。学内には法人化に対して、考え方や食い違いもあり紛糾した時代である。

理事長4年を振り返って、静かに考えてみる。人には考え方の差があり、それぞれ学んだ事、生まれ育ちも違う異質な先生方がそのまま泰然としているのが大学かも知れない。大学全体の学生をより良く、教養のある人々に育て上げることに集中して、小異を捨てて大同につく、心構えが求められる。

文大は先生方だけでも学生だけでも、又都留市だけでも成り立たない。市も先生も学生も皆が力を合わせて美しいハーモニーを奏で一体となって進んで欲しい。

大谷理事長、加藤学長の絶妙なコンビのもと一歩ずつ前進していく姿を眺めながら搁筆する。

“都留文大よ 永遠に輝け”

よき伝統を守り世界へ発信する

新理事長 大谷哲夫

本学は、教員養成系の大学として創立され、人口約3万人の小さな都市が大学を設置しているという全国でも珍しい大学です。

これまで本学は、全国に数多くの教育関係者を輩出してきましたが、近年は教育以外の分野においても多くの卒業生たちが活躍しています。それは、本学が地方都市にありながら、時代に即応し、常に時代の先端を進む高度の研究水準を維持し発展させ、教育・学問研究の環境を備え、人間の探求という校是を基に知的生産力の高い有数な大学として発展し、学生たちがそれに呼応するように、その在学期間に、知識を深め、創造力を開発し、身心を磨き、最もふさわしい伝統と歴史とを築き上げてきたからに外なりません。

現代の社会状況は、地球規模での協調と共生が叫ばれる一方で、国際紛争の熾烈化、国内的には高速な少子化・高齢化の進行、産業構造や雇用形態の大きな変化等々、かつて私たちが経験したことのない事態が到来し、将来の先行きは極めて不透明である、と誰もが口にします。しかしながら、時代の先行きというものは、何時の時代にあっても不透明であったのです。私は教職員と共に、今後、私たち



新理事長 大谷哲夫

の先輩が築き支えてきた枠組みを確実に検証し堅実で新たな枠組みを再構築し、市と協力しながら、日本全国と世界へ情報を発信し、より存在感のある大学となるよう努めて行く所存です。

さて、学生諸君にとって、時代が大きな転換期に入っている昨今、皆さんが、自分自身の人生に確かな目標を持つということは、なかなか難しいことでしょう。価値観のゆらぎは、世の常ですが、皆さんは、時代の流れに惑わされることなく、将来、いつか来る機会を確実にとらえ、あらゆる困難に出会っても強く生き抜ける自分を作るために、大局的な視野と考え方を持てるよう、自分自身の課題を発見し、見極め、一步一步確実に自分を築いていってください。大学時代は、人生の中で

も最も豊かな時間です。自らの意志で様々なことに取り組み一日たりとも疎かにすることのないよう、有意義な大学生活を送ってほしいと願います。

最後となりましたが、都留市、および大学関係者の皆様には、今後共、ますますの応援をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

略歴

大谷 哲夫
昭和33年3月
山梨県立都留高等学校卒業
昭和38年3月
早稲田大学第一文学部卒業
昭和40年3月
早稲田大学大学院卒業
昭和63年4月
駒澤大学仏教学部教授就任
平成14年4月
駒沢大学及び駒沢短期大学
長就任
平成18年4月
駒澤大学総長就任
平成22年3月
駒澤大学定年退職
平成25年4月
都留文科大学理事長就任

新教員紹介

文大に着任するにあたって

知れば知るほど楽しい数学



初等教育学科講師

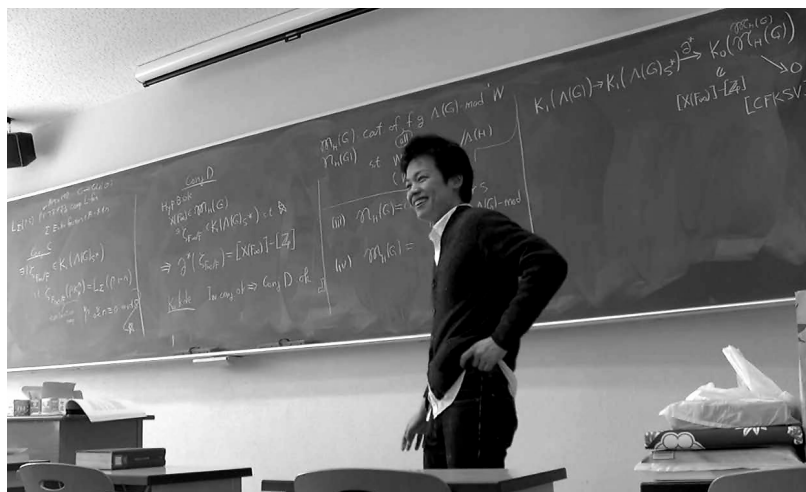
岡野恵司

本年度より初等教育学科に着任しました岡野恵司です。私は早稲田大学、東京理科大学にて数学科の助教として勤めてまいりました。この度、文学部という今までとは少し違う環境の中で、お仕事をさせていただくことになりました。

専門は数学の中の整数論という分野です。1,2,3,4,...という子供の頃から親しんでいる数の中にある不思議な性質を、毎日調べて楽しんでいます。整数は調べれば調べるほど、深く美しい真理を見せてくれます。その一部を探り当て、そこから正しい答えを見つける過程は、まるで宝探しをする冒険家になったような気分です。たとえばオイラーは

$$\frac{1}{1^2} + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{3^2} + \frac{1}{4^2} + \frac{1}{5^2} \cdots = \frac{\pi^2}{6}$$

という式を見つけました。 π は円周率です。自然数の2乗をひっくり返して和をとると、自然数とはまったく関係がなさそうな円周率3.1415...が出てくるというのは。いったいなぜなのか？きっと偶然ではないはずです。私はこの式の成り立つ理由やその背後にある理論をぜひ知りたいと思い研究を始め、そして現在は岩



整数論研究集会での岩澤理論の発展に関する講演

澤理論という、素数の代数的側面と解析的側面をつなぐ理論を学んでいます。

さて、初等教育学科では多くの学生が教員を目指しています。その理由を聞いてみると、たくさんの方が「教わった先生の人柄や教育に憧れて」と答えてくれます。私が数学の研究を志すことになったのも、一人の先生がきっかけでした。私の場合、その先生の人柄というよりは、その先生の見ている学問の世界に憧れてでした。その先生は、いつも数学というものを楽しんでいるようでした。教えるというよりも、先生自身が教壇の上で数学と遊んでいるような授業でした。時には間違えたり途中で詰まってしまったりしながら、そういったことも楽しい様子で目をキラキラさせて話す光景は、まるで黒板に書かれた式たちと会話をしているみたいで、私には魅力的でした。私は数学が苦手ですが内容はさっぱりでしたが、この

人は数学が大好きなんだと感じ、そしてそんな面白いものがあるなら自分も見たいと思い、勉強を始めました。

勉強を始め、数学の美しさを知り、解けなかったことがわかり感動して、そしてさらに奥に隠されていた美しさを知るためにまた勉強をする...そんなことを繰り返していくうちに、すっかり数学の魅力にとりつかれてしまいました。

私も授業では、この先生のように、丁寧に教えるだけでなく自分が数学を楽しむ姿を見せることで、数学の美しさや学ぶことの楽しさを知ってもらえるよう心がけています。

私自身、数学も教育もまだまだ学ぶことがたくさんあります。全国から集まる学生みなさんと一緒に、これから都留文科大学で学んでいきたいと思っています。皆さんもしっかり勉強をして、子どもたちに学ぶことの楽しさ、学問の本質が伝えられるようになってほしいと思います。

新教員紹介

文大に着任するにあたって

古典も今を生きている



国文学科准教授

加藤敦子

はじめまして。国文学科に准教授として着任いたしました、加藤敦子です。専門は日本近世文学です。「近世」とはおおよそ江戸時代のことで、私の専門は江戸時代の文学です。中でも特に歌舞伎や人形浄瑠璃など演劇を中心に研究しています。「江戸の芝居」です。こう言う楽しそうなテーマに聞こえますね。実際とても面白い研究テーマです。

元来私は江戸時代に興味がありました。そのルーツは、小学校高学年の頃に好きだったNHKのテレビ番組、人形劇「新・八犬伝」や時代劇「天下御免」だと思っています。大学での専攻を決めるに当たり、自分の関心の在り処を改めて考えた時、江戸時代の文化を探究したいと思い、以来、歌舞伎や人形浄瑠璃を主な研究対象としてきました。

そのため、文学研究ではありますが、作品が文化・社会と交錯するところに強い関心があります。卒業論文と修士論文では五代目市川団十郎という歌舞伎役者を取り上げましたが、それは、彼が一人の歌舞伎役者であることを超えて、時代を象徴する存在であったからです。その背景には、狂歌の流行、錦絵の誕生、出版メディアの発達とい

う文学・文化・社会の状況がありました。

2000年、縁あって韓国の大学で教壇に立つことになり、異国の地で、平日は授業と研究に勤しみ、週末は映画や舞台を楽しみ、連休には韓国各地を旅行する、という日々を送りました。パンソリ・国楽・仮面劇・農楽などの伝統芸能、現代演劇、海外ミュージカル、韓国映画、何でも積極的に見に出かけました。幸運なことに、私が韓国で暮らした7年間は韓国の映画やミュージカルが飛躍的に発展した時期で、見るべき作品に事欠くことはありませんでした。そしてここでも、発展の背景には国や自治体の支援、興行システムの形成、人材育成の努力など環境の変化があることを目の当たりにしました。

現在は、学生時代から見続けている歌舞伎・文楽・能狂言などに加えて、ミュージカルや映画にも日常的に足を運んでいます。毎月10本前後。年に何度か

はソウルへも舞台を見に行きます。

私の近世文学研究はこうした実践に支えられています。研究の基本は作品や論文を読むことですが、演劇はそれを取り巻く環境と切り離して考えることができません。歌舞伎は今年4月に新しい歌舞伎座が開場してメディアに賑やかな話題を提供しています。文楽（人形浄瑠璃）はその発祥の地で補助金の是非に関する議論が続いています。古典芸能であっても、社会と無縁に存在することはできませんし、社会や時代の要請があるから上演され継承されるのです。古典芸能も今を生きています。

このような研究を続けている身として、リベラルアーツを重んじる都留文科大学への着任をとても嬉しく思っております。本学での研究・教育を通じて、古典の意義を発信し続けていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



前の歌舞伎座の開場を伝える記事。旧歌舞伎座最後の舞台の客席に米粒ほどの大きさで私も写っています。2010年4月29日付東京新聞

新教員紹介

文大に着任するにあたって

文大に着任するにあたって



社会学科教授

田中里美

このたび、社会学科環境コミュニティ創造専攻に、地域社会論担当教員として着任した田中里美です。どうぞよろしくお願い致します。

4月の半ば過ぎ、介護体験のお願いに甲府市にある特別支援学校に伺いました。大月から西に向かい、甲府盆地に入ると、行く手にどっしりとした山々が見えてきました。「あちらはもう長野だ、長野は近いなあ」と思うとともに、昔、八ヶ岳をはじめあちこちの山に登ったことが思い出され、「山はずっとそこにあったのだ」というあたりまえの事実胸を衝かれました。

長野は私が教員生活を始めた土地です。長野市にある長野県短期大学に勤めていました。その後広島に移り、今春まで広島国際学院大学に勤務していました。変わらぬ山の佇まいを目にしていると、広島で過ごした13年間のあたたかみが一瞬のこのように感じられました。

さて、私は奈良で学生生活を過ごしました。大学院に進学してからは、週に一度、特別養護老人ホームに、ボランティアに通っていました。そこで出会った女性たちは、ボランティアを实践するだけでなく、大学の教員とともに勉強会を開き、シンポジウムを開催し、今とは違

う高齢者介護のあり方を求めて、学び、考え、社会にもこれを発信していました。介護保険前夜、介護と言えば、家で妻や嫁など女性が行うのが当たり前とされていた頃のことです。議論の中でしばしば取り上げられていたのは、公の果たす役割の大きい北欧の高齢者福祉のしくみでした。当時私はフィンランドから来た留学生のチューター（留学生のことと生活のお世話係）をしていたこともあって、フィンランドで高齢者福祉を学ぶことにしました。

あれから20年。日本では介護保険法が成立し、サービス利用者の数は急速に拡大しました。一方のフィンランドでも、高齢者福祉を含め、基礎自治体のサービスとの関わりは大きく変化しました。現在では、日本の高齢者の方が恵まれていると思える点があくつもあります。フィンランドと日本の高齢者福祉をみてきた私は今あらためて、「理想の北欧の高齢者福祉」というものが時代を越えて存在す

るわけではないということ（それが実際にあったかどうかは別の問題）実感しています。

社会は日々、年々変化します。皆さんもこれからどんな場で生きていくことになっても、一生、変わり続ける自分と家族、社会の中で学び続け、自分の考えを形成し、人と関わり、社会の生成変化に力を添えていくことになります。どうせなら少しでも良い社会を作り、次世代に渡したいですね。

この稿を閉じるにあたって、新潟に行った際たまたま入った會津八一記念館で見た「学規」を紹介しておきます。その筆跡と相まって印象に残っています。

- 一、ふかくこの生を愛すべし
- 一、かへりみて己を知るべし
- 一、学藝を以て性を養うべし
- 一、日々新面目あるべし

大学生活が皆さんの今後の人生の糧になることを願っています。



フィンランド、ウラケミヨキの老人会にて

新教員紹介

文大に着任するにあたって

A rolling stone gathers no moss.



情報センター特任准教授

黒崎茂樹

本年度より情報センターに特任准教授として着任いたしました、黒崎茂樹と申します。2005-2006年度には本学の非常勤講師として「コンピューター演習Ⅰ・Ⅱ」「情報とシステムⅠ・Ⅱ」などの科目を担当しておりましたが、本年度は「情報リテラシーⅠ」など計7クラスを担当しております。本稿に載せていただいた写真は、初等教育学科と国文学科の1年生が受講している「アカデミック・スキルズ」の授業風景の一コマです。都留文科大学前駅周辺は料理をしない私でも不自由なさそうでしたので、今は都留市民の一人として大学近くから通勤しております。

さて、以下では私の経歴についてご紹介したいと思います。幼いころは外科医になりたいと思いつつも、小学校時代は友人達と「マシン語」やBASICプログラミングなどをして遊んでいました。高校進学では高専の電気工学科などに進みたかったのですが諸事情により断念。外資系企業で働きたくなったので、大学進学では外国語学部を目指すことにしました。

大学・大学院時代は関西で過ごしたのですが、このときから「A rolling stone gathers no moss」と形容できるような人

生が始まりました。さて、この諺に対して皆様はどのような解釈を与えますでしょうか…。京都外国語大学で学部時代を過ごし、修士課程は神戸大学大学院、博士後期課程は関西学院大学大学院で英語学(主に統語論・語彙意味論・構文論)を教育研究分野としておりました。その一方で、学部の授業でFortran・COBOL・SPSSを学習し、神戸大学では文学部・文学研究科のC/S型ネットワークシステム構築・運用のお手伝いをしました。関西学院大学では、とある先生から「言語学がわかり、かつ、UNIXがわかる院生」ということでお声をかけていただき、先生のご研究分野である「データマイニング」研究のお手伝いをさせていただきました。研究ラボに貼り出されていた公募に応募したところ、計算機センター助手(コンピュータシステム支援)として学習院大学に任用されましたが、この時点からキャリア・ステップの軸足が英語学

から情報教育・教育学の分野に移ったことになります。その後、関西学院大学情報メディア教育センター(2010年度に共通教育センターに組織改組)専任講師として学部生の情報教育や大学・法人の情報環境・情報基盤整備に尽力いたしました。

高等教育の世界では昨今「流動性・モビリティの強化」が話題になることがありますが、私のキャリアはある意味で「高いモビリティ」を呈しているのかもしれない。情報教育に関する授業や情報センター業務運営の支援を含めた教育・研究・学務・地域貢献に関する諸活動を通じて、微力ながらユニークなキャリアを積んできた私ならではの貢献をしていきたいと考えております。「rolling stone」な私ですが、どうぞ皆様、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



「アカデミック・スキルズ」の授業風景

新教員紹介

文大に着任するにあたって

文大に着任するにあたって



特任准教授

岡部真理子

4月に特任准教授として着任した岡部です。4月に発足した国際交流センター日本語教育研究室の一員として、留学生の受け入れ業務と、留学生を対象とした日本語科目および日本語教員を目指す学生を対象とした日本語教員養成課程のコーディネートを担当しています。

これまで、カリフォルニア大学バークレー校（アメリカ）で2年、モナシュ大学（オーストラリア）で8年、専任教員として日本語や日本語教員養成関係の科目を、そして山梨県内や近隣のいくつかの大学で非常勤教員として日本語を教えた経験があります。都留文科大学では、2001年から非常勤講師として留学生対象の日本語の科目と日本語教員養成課程の「日本語教育入門」を担当してきました。

都留文科大学では、留学生を支援するシステムとしてチューター制度があります。この制度自体はさほど珍しくないのですが、他大学と違う最大の特徴は、留学生とチューターの関係が非常に近いということです。この背景には、全学的にチューターを募集し、国際交流室のスタッフのサポートのもと、チューターが留学生の学業のみでなく留学生活全般にわたって支援をしていることと、チューターと



留学・国際交流室の敏腕スタッフと

なる学生の意識がとても高いことがあります。チューター制度は、特に短期留学生にとって半年あるいは一年という短い都留での留学生生活を有意義なものとする鍵になるとともに、チューターにとってもいろいろな意味で国際的な視野を持つ経験になっていると思います。国際交流、海外への留学、あるいは日本語教育や留学生に興味のある学生は、ぜひこのチューターを経験してみたいと思います。

私の本業である日本語教育に話を戻すと、日本国内では、文法や語彙を基礎からひとつひとつ積み上げていくかたちでの文型先行型の日本語教育が広く行われています。確かに日本の大学に入学し学位を取ることを目的としている留学生の場合、日本語を基礎から着実にかためる必要があるのでこの方法が適しているかもしれません。ただ、短期留学生について見てみると、もう少し違った考え方が必要になるのではないのでしょうか。海外のそれぞれの所属大学で日本語を学んできた短期留学生たち

は、そのレベルも、学んできた内容もさまざまです。日本でいろいろな経験をしながら、半年や一年という短い期間でいかに日本語能力を伸ばせるかを考えたとき、文法や語彙を中心として、学んだ項目を実生活でどう使うかを考えるのではなく、日本語で何をしたいか、何をすることが必要かを中心とし、そこで必要となるコミュニケーションの要素として文法や語彙を考えるという、発想の転換が必要なのではないかと考えます。

1980年代から日本語教育の多様化ということが言われていますが、最近では新たに小学校や中学校での日本語を母語としない児童生徒への日本語教育も問題となっています。対象が変われば教育の目的や方法もおのずと変わるはずですが、これから多様化する学習者に対応していくこと、また対応する能力を備えた教員を養成することを課題とし、努力したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

学外研究報告



初等教育学科准教授

藤本 恵

せっかくいただいた学外研究期間には、ふだんできないことをしようと、いくつか計画を立てていました。その中で、いちばん楽しく、また成果もあったと感じたのは、「金子みすゞの詩を読む会」で出かけた仙崎への旅でした。

童謡詩人金子みすゞは私の学部時代からの研究対象で、この会は、本学印刷室におつとめの前田太二さんのお声がけで始まったものです。2011年の東日本大震災の後、テレビCMで有名になった詩「こだまでせうか」を読むところから広がって、勉強会を重ねるうちに、会の有志でみすゞの故郷・仙崎を訪ねよう、ということになりました。勉強会では、メンバーの一人に

よって、みすゞの詩「三つの小箱」に、かつて都留の織物として全国的に知られていた「甲斐絹」が出てくることも指摘されました。恥ずかしいことですが、このことに、研究者である私は全く気づいていませんでした。仙崎で立ち寄った金子みすゞ記念館の主任研究員にご報告したところ、この方をも驚かせ、仙崎と都留の意外な結びつきを示す指摘として感謝されました。

そして、この発見はさらに広がります。今年は山梨県で第28回国民文化祭が開かれており、その一貫として、都留市内のミュージアム都留でも、「甲斐絹展」が開かれます（9月22日～10月27日）。その一角で、「金子みすゞの詩を読む会」が、これまでの勉強の成果を発表させ

ていただけることになりました。みすゞと甲斐絹のつながりを中心に、近現代の文学作品と甲斐絹についての展示が行われる予定です。甲斐絹の意外な広がりを知り、地域の産業と文化を捉えなおす機会になると思いますので、どうぞみなさま会場に足をお運びください。

こうして旅に出ているとき以外は、卒業したお茶の水女子大学に公立大学研究員として籍を置き、大学院のゼミに出たり、各地の図書館で調査を行って論文をまとめたりしていました。約十年ぶりに戻ったお茶の水女子大学は、先生方や学生の顔ぶれも、大学の組織も、大きく変わっていました。そこに以前と違う身分で入りこむことで、ジェンダーと文学に関わる最新の研究動向に触れられただけでなく、現在、国立大学がおかれている状況についても多く考えさせられました。そして見えてきたのは、都留文科大学や都留市の特徴であり、自分のなかで知らず知らずのうちに育っていた、そうしたものへの愛着だったと思います。外に出ることで確認できた特徴や愛着を、今後の大学での仕事に生かしていけるよう、つとめたいと思います。

貴重な機会をいただきまして、ほんとうにありがとうございました。



仙崎の旅で、金子みすゞの詩を読む会みなさんと

学外研究報告



社会学科

平林祐子

2012年度、通年の学外研究の機会をいただいた。1年の間に、多くの事を学び、新たな人々と出会い、そして自分自身の生き方や働き方を見直すこともできた。これは普段仕事に追われている日常では決してできないことである。このような貴重な機会を与えてくださった都留文科大学と、1年間授業や学務を離れることを許容してくださった同僚の皆さんに、あらためて心から感謝したい。以下、この「幸せな一年」について報告する。

筆者は環境社会学および社会運動論を専攻しており、以前から反原発・脱原発のための社会運動やエネルギー／原子力政策について調査研究を行ってきた。東日本大震災と福島第一原発事故後、原発にかかわる問題や運動は新しい局面に入り、2012年度の学外研究期間は、現在進行形の社会の変化や運動の実態を把握するため、東京に拠点を置くことにした。客員研究員として法政大学の「サステナビリティ教育研究機構」に籍を置き、同機構のプロジェクトにも関わりながら個人で調査研究に従事した。

1年間に行ったことは大きく3つである。

1つ目は、東京で現在進行中の、原発をめぐる運動や多様な

2012年度学外研究報告



総理官邸前で大飯原発再稼働に抗議する人々

市民による活動の調査・参与観察である。東京都内の多様な運動、なかでも直接行動に可能な限り多く参加し観察を行うとともに、主要グループのコアメンバーを対象にインタビュー調査を行った。

2つ目は、1960年代からの日本における反原発運動の総括的研究のための資料収集。近い将来まとめたいと思っているものである。法政大学と早稲田大学の図書館に通って、古い一次資料等をかなり収集することができた。部分的には、この作業は「サステナビリティ教育研究機構」の『原子力総合年表・資料集（仮）』作成プロジェクトの作業とも重なる部分があり、原発立地点あるいは計画地点の詳細な年表作成および資料集の編集を他の編集委員らとともに行った（現在も継続中）。

3つ目は、外国調査と英語による研究発表である。2011年は

「アラブの春」から始まって世界各国で活発な運動が展開され、その一つにニューヨーク市で始まったOccupy Wall Street運動がある。この運動は日本の反原発運動とも多くの点で共通点やつながりがあることから、2012年4月から5月にかけて、シカゴとニューヨークでOccupy運動等の現場を訪れ、関係者から聞き取りを行った。また8月には、アルゼンチン・ブエノスアイレス市で開かれた国際社会学会International Sociological Association (ISA) のForumで発表を行い、各国からの研究者と意見交換することができた。

1年の間に、これまでできなかった生活改善にも取り組むことができ、心身の健康度が上がったように思うので、久しぶりの授業にも元気に取り組んでいきたい。

学外研究報告



比較文化学科教授

伊香俊哉

2012年4月から2013年3月まで近現代日中関係史にかかわるさまざまな資料・情報の収集を主な目的として、北京大学歴史系に身を置く形で調査研究を実施した。その間台湾やイギリスにも足を運んで資料調査をした。資料の公開状況には、「お国柄」の問題もあり、差が大きい。資料の公開や複写の面で、デジタル化が進展していることは確かである。以下、おもに通った図書館・資料館の事情を簡単に紹介してみたい。

日常的に通ったのは北京大学図書館であった。北京大学図書館に入って驚いたのは、閲覧室への飲み物の持ち込み（勿論飲むことも）が認められていることであった（ちなみに台湾大学の図書館でも同様だった）。本を借り出してコピーすることはできるが、僕は大幅に分厚い地方史文献をコピーすることが多かった。館内でコピーした。地方史文献は3階に配置されていて、コピーのためにはまず3階閲覧室の出入り口にあるカウンターに本を持っていき、そこでコピーを申し出て、本の登録ナンバーをノートに記入する。カウンターから連絡が行った複写係が来て、本をもって別の階のコピー室に行くので、同行する。コピーは係の人がしてくれて、そこで支払いも済みます。1枚0.2元（3円程度）。

海外資料館事情のひとコマ

戦前の新聞の縮刷版や原本は4階の台湾文献室にあるが、それらはコピーが禁止されている。複写はデジカメでの撮影となる。自分で撮るのが、1枚当たり2元取られる。面白かったのは、台湾文献室では2元かかるが、歴史学科の図書室での撮影は無料であった。

台湾へは2度行き、国防部史政編訳室、国史館、国家档案管理局、中央研究院近代史研究所などでの資料調査をおこなった。いずれも身分証はパスポートだけで足りた。国史館は現在は台北と新店にあるが、デジタル化された資料は台北ですべて閲覧できる。新店ではデジタル化していない原資料も閲覧が可能である。コピーは自分です（1枚2元）。国防部の資料を今回初めて探したが、かつては国防部史政編訳室で閲覧可能といわれていたが、現在はすべて国家档案管理局に移管されていることが分かった。ただ同局は、閲覧申請のあった資料を審査の上で閲覧許可を出すので、大量に閲覧申請をしないと実際に閲覧できるまでに2～3ヶ月かかる。ただ許可された分はデジタル化されたものについてはCDに焼いてくれるし（1コマ2元+10元）、原資料の撮影は無料である。国史館はネット上で一部の資料は閲覧可能だし、国家档案管理局はネットでの目録検索、申請書類のダウンロードなども

できる（ただし大陸からだアクセスが悪かったと記憶する）。

イギリスではNational Archivesに通ったが、入館証を作るには所属機関による身分証明書が必要である。今回持っていった書類には学長名をワープロで入れてもらったのだが、サインがなかったことがちょっと問題になったようだ。サインがあれば万全だったのかもしれない。同館の資料はネットでの検索や一部ダウンロードが可能だが、デジタル化されていない原資料は行かねば見られない。撮影は無料ででき、撮影用のスタンドも多数設置されている。閲覧室はやたらに涼しく、冬場は僕は長袖のジャケットに、ダウンのベストを着込むのだが、欧米系の方々は薄着・半袖で平然としている。不思議なものである。



四川省松藩にて。イスラム系の住民がいるこの地域では「伊香」というのはイスラム風という意味。イスラム風のクッキー屋さんで、店のお嬢さんと。

就職率 96%を超える～昨年度の就職状況を振り返って～

キャリア支援センター長 鶴田清司



昨年10月、従来のキャリアサポート室がキャリア支援センターとしてリニューアルしました。4号館1階のフロアを全面改装し、学生のみなさんが利用しやすいように整備・拡充を図りました。今年度からは、センター所属の相談員も増やして、より充実した支援体制を組んでいます。気軽に立ち寄って、就職活動の一助として大いに利用していただきたいと思います。

なお、センター長は、昨年は副学長が兼務していましたが、今年度から学長指名によって私が務めることになりました。これまでに初等教育学科の就職委員は何度か務めた経験がありますが、こうした仕事（特に企業・公務員関係）には慣れていません。しかし、優秀な専門スタッフと協力して、学生のみなさんのために微力を尽くしていきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本学の平成24年度就職状況について振り返ってみましょう。

文部科学省と厚生労働省による平成24年度就職状況調査（国立大学21校、公立大学3校、私立大学38校）を見ると、今春卒業した大学生の就職率は93.9%（4月1日現在）で、ほぼ昨年度並みでした。本学では735名の卒業生（前期卒業生を含む）を送り出しました。就職希望者は567名で、そのうち545名の就職が決まりました。就職率は96.1%で、全国平均を上回っています。平成18年度から20年度までの3年間は95%前後でしたが、その後下落し、平成22年度は82.5%まで落ち込みまし

た。しかし、平成23年度には90%台に回復し、昨年度は96.1%という近年にない高い就職率を記録しました。就職決定者の数は前年度とほぼ同じだったのですが、分母となる就職希望者が567名と前年度より26名減少したため、就職率が上がったというわけです。就職先の内訳を見ると、前年度と比べて、教員（臨時採用を含む）はやや減ったものの、企業と公務員は増加しました。

教員として採用された人は公立と私立を合わせて178名で、昨年度より15名減りました。しかし、

表1 平成18～24年度の就職関係データ

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
卒業生数A	675	642	683	667	717	761	735
就職希望者数B	516	490	521	511	530	593	567
就職決定者数C	488	467	492	459	437	544	545
大学院等進学者数D	44	47	53	53	51	57	45
就職率C/B×100	94.57	95.31	94.43	89.82	82.45	91.7	96.12
進路決定率(C+D)/A×100	78.81	80.06	79.8	76.76	68.06	78.98	80.27
内訳							
企業	315	309	315	252	217	297	310
教員	136	138	153	169	176	193	178
公務員	37	20	24	38	44	54	57

平成25年3月卒業生 就職先一覧

■初等教育学科

企業

株式会社 拓人
沖農機
株式会社 Grapes
株式会社 MAXISホールディングス
株式会社 STEP
株式会社 イフ
株式会社 ウィングル
株式会社 サンキョー(伊勢ダナール)
株式会社 シェイプアップ
ハウス株式会社 セノン
株式会社 ビュースポーツ
株式会社 プロケア
株式会社 山梨中央銀行
株式会社 臨海セミナー
株式会社 エス・ビー・ディー
明治
株式会社ホンダ四輪販売甲信
株式会社新潟アルビレックスフアン
クワッ京都北部信用金庫
山梨県厚生農業協同組合連合会
山梨県民信用組合
社会医療法人
加納岩 山梨リハビリテーション病院
社会福祉法人
かわね総合リハビリテーション事業団
社会福祉法人 共生会
社会福祉法人
児童養護施設 青葉学園
社会福祉法人
聖ヨハネ会 富士聖ヨハネ学園
小島 プレス工業 株式会社
石川県農業協同組合中央会
日拓リアルエステート 株式会社
日本郵便 株式会社
有限会社 ジェイ・ケイ・ライジング
幼児活動研究会 株式会社

教員

北海道教育委員会
岩手県教育委員会
宮城県教育委員会
福島県教育委員会
栃木県教育委員会
群馬県教育委員会
埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会
千葉県教育委員会
東京都教育委員会
神奈川県教育委員会
横浜市教育委員会
川崎市教育委員会
相模原市教育委員会
新潟県教育委員会
富山県教育委員会
石川県教育委員会
福井県教育委員会
山梨県教育委員会
岐阜県教育委員会
静岡県教育委員会
静岡県教育委員会
愛知県教育委員会
名古屋市中区教育委員会
兵庫県教育委員会
神戸市教育委員会
奈良県教育委員会
和歌山県教育委員会
岡山県教育委員会
山口県教育委員会
徳島県教育委員会
愛媛県教育委員会
福岡県教育委員会
宮崎県教育委員会
沖縄県教育委員会
上野原市教育委員会
大月市教育委員会
都留市教育委員会
大和市教育委員会

公務員

甲州市役所
篠栗町役場

■国文学科

企業

アパグループ
オーケス 株式会社
シリウスグループ
チモロ 株式会社
バンドリノート 株式会社
パンドクレム (pain de creme)
医療法人社団 田中病院
英智学館 株式会社
越後製菓 株式会社
塩原市農業協同組合
河川湖沼グループの森美術館
学校法人 盛岡大学
株式会社 A I カンパニー
株式会社 アーバン (メガネット)
株式会社 アオキスパー
株式会社 アスタリスク
株式会社 アップ
株式会社 エイチ・アイ・エス
株式会社 エクセル
株式会社 エクセルシア
株式会社 エムエル・ミラ
株式会社 クオパブリッシング
株式会社 クスリのアオキ
株式会社 ケイライン
株式会社 コシダカ
株式会社 シースタイル

株式会社 システムエグゼ
株式会社 ダイナム
株式会社 トイグループ
株式会社 バソナ
株式会社 フードクリエイター
株式会社 リノベーションプランニング
株式会社 リバース東京
株式会社 三越伊勢丹
株式会社 山梨中央銀行
株式会社 損害保険ジャパン
山梨支店
株式会社 文理学院
株式会社 綿平ホームエイド
株式会社 和光
株式会社 ささきホールディングス
株式会社 ラビアンローゼ
株式会社 渋谷文芸閣
公立大学法人 岩手県立大学
広島市信用金庫
高岡市農業協同組合
高山信用金庫
山梨県民信用組合
社会福祉法人 幸光
信濃電機株式会社
心理学専門学校ファイブアカデミー
相鉄イン 株式会社
長野信用金庫
田中電気株式会社
都留市未来型農・林業推進協議会
都留文科大学
藤相織物 株式会社 花美の里
有限会社 ステージデザインサービス
有限会社 ハートマーケット
有限会社 光影舎

教員

北海道教育委員会
教員青森県教育委員会
宮城県教育委員会
福島県教育委員会
茨城県教育委員会
群馬県教育委員会
埼玉県教育委員会

千葉県教育委員会
東京都教育委員会
横浜市教育委員会
長野県教育委員会
静岡県教育委員会
愛知県教育委員会
兵庫県教育委員会
海老名市教育委員会
裾野市教育委員会
学校法人 日本航空学園

公務員

警視庁
防衛省陸上自衛隊
富士宮市役所
都留市役所
小諸市役所
府中市立図書館
浜松市役所
会津若松市役所

■英文学科

企業

SMBCフレンド証券 株式会社
エンゼル動物病院
株式会社タイマー・エス・アール
コーナン商事 株式会社
さくら英語教室
セキスイハイム東北 株式会社
ソニー損害保険株式会社
ピーアールホールディングス 株式会社
ヒューマンアカデミー 株式会社
ユーシーシーフーズ 株式会社
ルートイングループ
レノックス・アンド・カンパニー株式会社
学校法人 駿河学園
株式会社 Grapes
株式会社 ICSコンベンションデザイン
株式会社 アセラ
株式会社 インネットソリューションズ
株式会社 インタースパ
株式会社 インテリジェンス
株式会社 エイチ・アイ・エス
株式会社 エルク
株式会社 カジメイク
株式会社 コメリ
株式会社 ジーユー
株式会社 システムテーション
株式会社 ショパール
株式会社 スペース・プラン
株式会社 トリコロール
株式会社 パービーブ
株式会社
ビューティーコンテンツファクトリー
株式会社 フォトリテリング
株式会社 ぶどうの木
株式会社 ミラク
株式会社 ミキハウス
株式会社 ミラク
株式会社 メルヘン
株式会社 成田空港ビジネス
株式会社 東横イン
株式会社 八十二銀行
株式会社 文苑堂書店
株式会社 北陸銀行
株式会社 鈴鹿英数学学院
株式会社 サンシャイン
株式会社 電通
㈱アドバンスシステムテクノロジ
丸七住宅株式会社
丸全昭和運輸株式会社
甲斐日産自動車 株式会社
三井住友海上火災保険 株式会社
社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院
社会福祉法人 南館厚生院
十日町農業協同組合
松山総合開発株式会社 松山
山全日空ホテル
水戸信用金庫
全国健康保険協会
大和リビング 株式会社
長野県厚生農業協同組合連合会
長野県労働金庫
長野信用金庫
天橋立宮津ロイヤルホテル
東日本電信電話 株式会社
東日本旅客鉄道 株式会社
東京ステーションサービス
株式会社

公立学校で正規採用となった人は77名で、前年の67名よりも10名増加しています。公立学校では、北海道から沖縄まで全国35都道府県（臨時採用を含む）で採用されています。正規採用では、採用数の多い大都市圏の比率が高い傾向が続いています。特に東京、千葉、愛知では相変わらず多く採用されています。また昨年度は、栃木（4名）、群馬（3名）、埼玉（2名）、千葉（6名）、東京（12名）、神奈川（2名）、横浜市（2名）、相模原市（6名）、新潟（2名）、富山（3名）、静岡県・市（11名）、岐阜（3名）、愛知（8名）で複数の合格者がでました。栃木県は前年度ゼロでしたので大躍進です。相模原市、静岡県・市も大幅に増えました。一方、東北地方、

中国地方、四国地方、九州地方は相変わらず採用が厳しい状況が続いています。神奈川県もここ数年間で激減しています。

公務員は、この10年間では最高の57名の合格者がでました。社会学科25名（現社11名、環コミ14名）を筆頭に、国文、英文、比文の各学科から10名前後合格しています。就職先としては、例年通り、市役所や県警察本部などが多くなっています。

民間企業就職者は310名に上り、3年ぶりに300名を超えました。運輸通信業（12名→30名）、金融保険業（19名→29名）、サービス業（129名→146名）が増加し、逆に製造業（32名→23名）、卸小売業（86名→67名）は減少しました。その他は大きな変化はありません

表2 平成25年3月卒業生
(前期卒を含む)の就職先別人数

A	教員	小学校	127
		中学校	29
		高等学校	13
		私立学校	9
		合 計	178

B	公務員	国家公務員	2
		地方公務員	55
		合 計	57

C	民間企業	農業	4
		建設業	5
		製造業	23
		運輸通信業	30
		卸小売業	67
		金融保険業	29
		不動産業	6
		サービス業	146
		合 計	310

D	公立学校都道府県別採用数（臨採含む）	北海道	2	岐阜	3
		青森	1	静岡・市	21
		岩手	1	浜松市	2
		宮城	2	愛知	13
		福島	3	名古屋	2
		茨城	1	三重	1
		栃木	5	京都	1
		群馬	4	兵庫	3
		埼玉	3	神戸市	1
		千葉	10	奈良	1
		川崎市	1	徳島	3
		相模原市	9	愛媛	1
		新潟	3	福岡	1
		富山	4	佐賀	1
		石川	5	宮崎	1
		福井	1	鹿児島	1
		山梨	20	沖縄	1
		長野	6		
				合 計	169

でした。

さらに、大学院などへの進学者は45名とほぼ例年並みでした。専門学校や大学の研究生・科目等履修生等は一昨年度とほぼ同じ20名でした。このうち留学は8名で、昨年（5名）よりも増えています。留学は勉学を継続する一つの形として、本学でも定着してきたようです。

以上、昨年度の就職・進学等の状況について簡単にまとめました。卒業生のうち就職決定者と大学院等への進学者を合わせると4年ぶりに8割を超えましたが、未決定の卒業生もそれぞれの進路を切り拓くべく、現在もお就職活動を継続したり、来年度に向けて準備したりしています。

政権が交代して、「アベノミクス」による景気回復が本当に実現するのか注目されるころですが、依然として就職状況は厳しいようです。

今年度も、みなさんにとって良い結果が出ることを祈っております。キャリア支援センターはこれまで以上に各種の就職関連行事を企画・実施して、みなさんを応援しますので、積極的に参加・活用して下さい。

東洋観光事業 株式会社 ホ
テルアパニスタ
北海道漁業協同組合連合会
有限会社 W I T S

教員
栃木県教育委員会
教員群馬県教育委員会
千葉県教育委員会
東京都教育委員会
山梨県教育委員会
長野県教育委員会
岐阜県教育委員会
静岡県教育委員会
浜松市教育委員会
愛知県教育委員会
徳島県教育委員会
鹿児島県教育委員会
都留市教育委員会
沼津市教育委員会
豊岡市教育委員会
三好市教育委員会
多久市教育委員会
学校法人 日本大学
学高等学校・中学校
学校法人 関東国際学園
聖徳学園高等学校
聖徳学園中学・高等学校
佐野日本大学中等教育学校

公務員
長野県警察本部
公務員防衛省航空自衛隊
飯山市役所
甲斐市役所
足利市役所
仙台市役所
東松島市役所
鴨川市役所
牧之原市役所
東久留米市役所
身延町役場

■比較文化学科

企業
比較文化学科IS証券 株式会社
TBCグループ 株式会社
アールビパン 株式会社
オークス 株式会社
かたすみ
サトーホールディングス 株式会社
セレスティカ・ジャパン株式会社
ひるかみ温泉 (株) 石苔亭
(せきたいてい) いしだ
フントレーディングジャパン
株式会社
ホンダ自動車販売 株式会社
ミモザ 株式会社
医療法人社団 元気会 横浜病院
株式会社 アズノウズ
株式会社 イービーエム
株式会社 ウインローダー
株式会社 エービーシー・マート
株式会社 ケースホールディングス
株式会社 コナカ
株式会社 サンエー・インターナショナル
株式会社 しまむら
株式会社 シャンテリー
株式会社 スパーク
株式会社 センジョホールディングス
株式会社 ダイナム
株式会社 トップカルチャー
株式会社 トリニティーツ
株式会社 ネクサス
株式会社 バル
株式会社 ビックカメラ
株式会社 マイテック
株式会社 ウイスリー
株式会社 華
株式会社 快適住まいづくり
株式会社 共立メンテナンス
株式会社 近鉄ホテルシステムズ
株式会社 三喜
株式会社 山岸製作所
株式会社 山梨中央銀行
株式会社 秀英予備校

株式会社 大塚家具
株式会社 天満屋
株式会社 島忠
株式会社 東急リポートサービス
株式会社 日テレ アックスオン
株式会社 富士レックホテル
株式会社 文苑堂書店
株式会社 アイエイノトラベル
株式会社 エス・ティ・ワールド
株式会社 サンウェル
株式会社 ビデオ・ステージン・キュー
株式会社 メディアリンク
株式会社 大光銀行
協同組合 山梨県流通センター
山梨県民信用組合
社団法人 農山漁村文化協会
秋庭歯科医院
静清信用金庫
積水工業 株式会社
倉敷アイビースクエア
都留文科大学
島村楽器株式会社
東香寺
東小金井さくらクリニック
湯快生活株式会社 やまの湯
敦賀海陸運輸 株式会社
日新自動車 株式会社
萩原 株式会社
富山保険サービス
福井鉄道 株式会社
有限会社 あおぞら企画
鈴与株式会社

公務員
山梨県警察本部
静岡県警察本部
鳥取県警察本部
富山市役所
神橋市役所
福井市役所
上越市立図書館
北岡町役場
若狭および美食文化館
青森県総合教育センター

■社会学科現代社会専攻

企業
アスファール 株式会社
スルガスタッフサービス 株式会社
セキスイハイム信越 株式会社
ハイビック 株式会社
山中農園
株式会社 D S C
株式会社 TDモバイル
株式会社 アグレックス
株式会社 ウェリタス・インベストメント
株式会社 ウオロク
株式会社 エーツ
株式会社 エディット
株式会社 クリーク・アンド・リバー
株式会社 コミュニケーションサービス
株式会社 さの萬
株式会社 サンフォート
株式会社 ジーライツ
株式会社 シャトレーズ
株式会社 セイツ
株式会社 セルバ
株式会社 ひまわり市場
株式会社 メガネトップ
株式会社 レッドバロン
株式会社 三越伊勢丹
株式会社 東海テレビプロダクション
株式会社 東京ハイパース
株式会社 平安
株式会社 北陸銀行
株式会社 カシイ
株式会社 マックス
群馬みらい信用金庫
佐渡汽船株式会社
財団法人恵愛会 聖隷富士病院
社会福祉法人 山梨社会福祉事業会 宝山寮
須賀川信用金庫
西多摩農業協同組合 (JA)したま
静岡トヨベツ 株式会社
大田商工会議所
都留文科大学
鳥取県国民健康保険団体連合会

特例民法法人 山梨労働者
医療協会
日本年金機構
飯田工業製品株式会社
磐田信用金庫
富士市農業協同組合
有限会社 静電社

教員
東京都教育委員会
教員相模原市教育委員会
山梨県教育委員会
岐阜県教育委員会
静岡県教育委員会
愛知県教育委員会
中能登町教育委員会
学校法人 日本航空学園

公務員
山梨県警察本部
公務員静岡県警察本部
京都府警察本部
気仙沼市役所
都留市役所
大月市役所
富士宮市役所
福岡市役所
上島町役場
おおい町役場

■関係コミュニティ 創造専攻

企業
イオンリテール 株式会社
ネットヨクヤ都宮 株式会社
フルーツ山梨農業協同組合
ユニーコプ事業連合
伊賀北部農業協同組合
株式会社 ジットセレニール
株式会社 まつおか
株式会社 マルハン
株式会社 建設システム
株式会社 原田
株式会社 源 吉兆庵 米子
高島屋本店

株式会社 市場開発研究所
Market Development
Research
株式会社 精研
株式会社 島羽洋行
株式会社 類設計室
株式会社 農文協プロダクション
株式会社 平和室
金澤法律事務所
公益財団法人 大原美術館
山中湖情報創造館
社会福祉法人 コロロ学舎
社会福祉法人 ふじの実会
社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会
都留信用組合
日拓リアルエステート株式会社
富士観光開発 株式会社
富士市農業協同組合
平林金属 株式会社

教員
群馬県教育委員会
教員東京都教育委員会
静岡市教育委員会

公務員
山梨県庁
公務員茨城県警察本部
羽村市役所
飯田市役所
茅野市役所
八王子市役所
裾野市役所
北杜市役所
名古屋交通局
高根沢町役場
奈良町役場
国頭村役場
道志村役場

「学生による授業アンケート」の結果から

施設・設備面の課題改善へ

—より主体的な学習を期待する—

FD委員会委員長 田中昌弥



1. アンケート項目の改善点

本学では、毎年度、前期と後期に「学生による授業アンケート」を行い、授業改善に役立てる資料としています。2012年度のアンケートでは、質問項目の見直しを行いました。2011年度までのアンケートとの違いは、主に以下の点です。

- ①施設・設備について改善すべき点を募る項目を設定し、要望を具体的に記述してもらえようにした。
- ②授業に対する学生本人の姿勢について問う項目を増やした。大学において主体的に学習に取り組むことは学生一人ひとりの自覚の問題だが、実態を把握することで教員側が改善・配慮できる部分がないかを検討する手掛かりにするという趣旨である。
- ③授業の難易度についての項

目を立てた。

- ④上記①を含む自由記述欄についてもデータ化を行い、個々の学生からの具体的な声を教員個人にとどめず、集約できるようにした。

2012年度の回答数は、前期が12,695通、後期が12,221通でした。

2. 施設・設備の改善に向けて

施設・設備面の項目(D-12)は、授業の質の向上の観点から新たに追加したものなのでどのような結果が出るか注目していましたが、約95%の回答が5～3(普通)に収まっていたので、本学の施設・設備に対する満足度は、数値の上ではおおむね良好と言えそうです。

しかし、記述欄では多くの指摘がありました。授業名は異なっても、いくつかの教室の設備に要望が集中する傾向が見ら

れ、全般的には満足でも、特定の教室については共通に不便を感じている部分があるようです。内容的には、モニターの故障、椅子の硬さ、黒板とチョークの状態による板書の文字の見にくさなどが多く出されました。

施設・設備については、これまでも教務担当と財務担当が椅子の更新、プロジェクターの増設などを中心に計画的に改善を進めていましたが、今回のアンケートで対処すべき個所を具体的に把握することができたので、優先的に改善していくことになりました。今年度のアンケートも合わせて改善の状況を確認していきますので、指摘をお願いします。

3. 課題は予習・復習

予習・復習(B-4)については、すべての項目の中で唯一、3を下回っています。客観的基準(制度的には授業の倍の時間、

表1 授業形態比較

項	設問文	講義		外国語		実技・実習・実験		演習		全体平均	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
B	あなた自身の授業への取り組みについて	セクション平均点									
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3回程度の欠席)を「普通」とし、5段階で答えてください。	3.70	3.66	3.88	3.82	4.01	3.95	4.10	4.00	3.76	3.72
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	4.28	4.08	4.35	4.11	4.48	4.23	4.59	4.34	4.32	4.12
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	3.69	3.67	3.57	3.65	3.91	3.83	3.91	3.83	3.72	3.69
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行かなかったを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.90	3.88	4.05	4.04	4.48	4.40	4.37	4.36	3.98	3.97
5	授業の内容をよく理解できましたか。	2.85	2.89	3.59	3.51	2.88	3.10	3.42	3.32	2.94	2.99
6	授業の内容をよく理解できましたか。	3.77	3.77	3.81	3.77	4.26	4.21	4.23	4.17	3.84	3.84
C	授業の進め方について	セクション平均点									
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.04	4.05	4.14	4.09	4.37	4.37	4.38	4.35	4.09	4.11
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.06	4.07	4.12	4.09	4.49	4.45	4.41	4.37	4.12	4.13
10	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.02	4.05	4.16	4.14	4.50	4.45	4.42	4.36	4.09	4.11
11	プリント、ビデオ、教科書など教材の使い方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.16	4.16	4.18	4.12	4.13	4.25	4.37	4.36	4.17	4.18
12	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	3.92	3.93	4.08	4.02	4.37	4.35	4.31	4.30	3.99	4.00
D	授業環境について	セクション平均点									
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	3.99	3.98	4.27	4.21	4.39	4.43	4.39	4.36	4.06	4.06
E	授業内容について	セクション平均点									
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	3.93	3.95	3.90	3.91	4.19	4.18	4.18	4.14	3.96	3.98
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.10	4.11	4.16	4.10	4.47	4.44	4.41	4.36	4.15	4.15
15	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.09	4.13	3.98	4.05	4.35	4.37	4.37	4.37	4.12	4.16
16	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿って進んでいましたか。	4.03	4.04	4.02	4.01	4.32	4.32	4.32	4.28	4.07	4.08
17	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5～1の範囲で答えてください。	3.50	3.51	3.44	3.46	3.62	3.58	3.62	3.56	3.51	3.52
F	授業成果について	セクション平均点									
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.12	4.15	3.97	4.09	4.37	4.38	4.42	4.41	4.15	4.19
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.11	4.14	3.87	4.04	4.25	4.29	4.34	4.36	4.12	4.16
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	4.14	4.18	4.08	4.17	4.47	4.48	4.49	4.46	4.19	4.22

すなわち90分の授業1回に対して学生は自分で3時間の予復習をすることが単位認定の基準として言われています)に照らしての質問ではなく、自分としてはどう思うのかについての回答ですから、自分で不十分だと自覚している学生が多いということです。

表では挙げていませんが、講義科目では、予習・復習を全く行わなかったと答えた学生が前期で18.66%、後期で15.88%おり、この人たちは授業に対する姿勢に反省が必要です。教員側も、安易な授業だという誤解を学生に与えていないか、再検討してみる必要があるでしょう。

知識確認を中心とした高校までと違い、テキストを読んで上で、自分なりの論点を考え、発展的な内容を調べるところまでが大学の予復習です。こうした学び方、頭の働かせ方が習慣になっているかどうかは職業人になって差がつくところでもあるので、学生時代に馴染んでおい

てください。

また、年配者の中には、「大学時代は遊んでばかりいた」と言う人がいますが、そうした話を今の感覚で真に受けてはいけません。彼・彼女たちは、授業

外で友人と議論したり、そのために本を読み漁ったりしていた時間まで無意識に「遊び」にカウントしている例が多いのです。予復習というものを狭く考えなくても、そうした授業外の学習も劣らぬ効果があります。ともあれ、大学で学べるチャンスを無駄にせず、活かしてもらいたいと思います。

4. オフィスアワーの活用を

表には収まらないので割愛していますが、今回初めて設定した項目である、授業を理解できなかった時の対処(B-6,7)については、「先生の研究室を訪ねた」という回答が極めて少ないのが特徴的でした。急に訪ねても忙しくて対応できない場合がありますが、本学の専任教員はオフィスアワーを設定しており、自分のゼミの指導教員以外でも学習上の相談に乗る制度にしています。シラバスで確認して是非利用してみてください。今後さらに研究室を訪ねやすいようにする工夫が必要だと思われるので意見も寄せてください。

5. 授業はややハイレベル?

これも今回初めての項目ですが、授業の難易度(E-16)につ

いての回答の平均は、3(普通)よりも少し難しいと感じられているようで、平均は約3.5でした。大学ですから多少難しいくらいの授業が良いのではないかと思います。5(難しすぎた)を選んでいる人も15~17%いるので、5を選んだ学生が多かった授業の担当教員は、理解不足に陥っている学生がいなか配慮が必要でしょう。

難易度については入学して間もない一年生が高校とのギャップを感じていないか心配でしたが、結果は逆に学年が上がるにつれて難しさを感じているようです。形態別では、「実技・実習・実験」と「演習」で難しいと答える学生が多いので、これらの形態の授業が増える上級学年で難しく感じることも多くなっていると思われます。

授業は教員と学生、そして学生同士と一緒に作るものなので、積極的に参加の上、大学・教員に改善に向けての希望があれば、ぜひこうした授業アンケートや、様々な機会をとらえて申し出て

表2 学年比較

項	設問文	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
B	あなた自身の授業への取り組みについて	セクション平均点							
1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。80%程度(3回程度の欠席を「普通」とし、5段階で答えてください。	3.76	3.68	3.78	3.73	3.75	3.78	3.66	3.64
2	事前にシラバスを読み、授業の目的、目標、内容を理解して臨みましたか。	4.61	4.28	4.28	4.10	4.21	4.08	3.68	3.66
3	授業に出席したときは、授業に集中し、熱心に取り組みましたか。	3.59	3.57	3.82	3.73	3.75	3.79	3.71	3.71
4	この授業について、予習あるいは復習をしましたか。十分に行ったを5、全く行かなかったを1とし、5~1の範囲で答えてください。	3.98	3.94	3.99	3.96	3.97	4.01	4.00	3.99
5	授業の内容をよく理解できましたか。	2.85	2.88	2.98	3.01	2.97	3.08	3.01	3.00
C	授業の進め方について	3.79	3.74	3.84	3.83	3.86	3.95	3.93	3.85
8	説明の仕方あるいは指示の仕方は、理解しやすかったですか。	4.02	3.99	4.11	4.13	4.14	4.21	4.15	4.16
9	話し方(声の大きさや明瞭さなど)や板書は、わかりやすかったですか。	4.07	4.02	4.14	4.15	4.16	4.22	4.16	4.16
10	プリント、ビデオ、教科書など教材の使われ方は授業内容の理解を助けるものでしたか。	4.03	4.02	4.09	4.13	4.14	4.20	4.16	4.16
11	学生の反応や理解度に応じた授業の進め方でしたか。	4.07	4.05	4.21	4.22	4.22	4.29	4.24	4.23
D	授業環境について	3.92	3.87	4.01	4.03	4.04	4.12	4.06	4.08
12	クラスの学生数、教室の設備、備品などは適切な状態でしたか。	セクション平均点							
E	授業内容について	4.10	4.06	4.05	4.05	4.03	4.10	4.06	4.04
13	授業内容はわかりやすく整理されていましたか。	3.85	3.86	4.00	3.99	4.02	4.09	4.07	4.07
14	授業の内容は、知的な刺激があり、興味深いものでしたか。	4.09	4.05	4.17	4.16	4.17	4.25	4.24	4.22
15	授業の内容・構成は、シラバスで書かれた目標に沿っていましたか。	3.98	4.03	4.17	4.17	4.18	4.29	4.24	4.27
16	授業のレベル(難易度)は適切でしたか。難しすぎたを5、易しすぎたを1とし、5~1の範囲で答えてください。	3.96	3.94	4.11	4.10	4.12	4.19	4.18	4.19
F	授業成果について	3.38	3.42	3.53	3.51	3.62	3.63	3.62	3.80
17	この授業を履修したことで、この分野に関する新しい知識や考え方、技能などを修得できましたか。	4.02	4.06	4.19	4.19	4.24	4.31	4.22	4.28
18	この授業を履修したことで、ものの見方や興味・関心を広げることができましたか。	4.02	4.06	4.17	4.17	4.23	4.30	4.21	4.26
19	総合的に考えて、この授業を履修して有意義であったと思いますか。	3.96	4.02	4.17	4.17	4.23	4.30	4.20	4.26
		4.07	4.10	4.22	4.23	4.26	4.34	4.26	4.33

国際交流センターの新設について

国際交流センター長 新保祐司

平成25年（2013年）4月1日より、国際交流センターが設置されました。従来からあった外国語教育研究センターに国際交流・語学研修室を統合し、そこに日本語教育を担当する部署が加わりました。

つまり、外国語教育研究室、留学・国際交流室、日本語教育研究室の3室から国際交流センターは成り立っています。「公立大学法人都留文科大学国際交流センター管理運営規程」の第2条（業務）には、「センターは、外国語教育と日本語教育の実施及び研究と、留学生の派遣・受け入れ並びに研究者交流など国際交流に必要な業務を行う。」とされています。

この3室が、機能的に連合して、今後ますます進展する国際化の時代に対応した教育・研究の充実を目指すことが期待されています。

外国語教育研究室は、共通教育の外国語教育を担当しますが、国際化の時代に活躍できる語学力を持った学生を育てるために、教育方法の一層の改善な

どに積極的に取り組んでいきます。

日本語教育研究室は、留学生を対象にした日本語教育、日本語教員を目指す学生を対象にした日本語教員養成課程を担当する部署で、これから一段と必要とされる日本語教育に対応した体制作りをしていきます。

留学・国際交流室は、留学生の送り出し、留学生の受け入れ、留学協定の推進、文化交流の促進などを担当しますが、すでに本学には以下のような留学の制度があります。

交換留学（1年間）として、カリフォルニア大学（アメリカ）、湖南師範大学（中国）、セント・ノーバート大学（アメリカ）、リジャイナ大学（カナダ）、ラトガーズ大学（アメリカ）、韓国外国語大学校（韓国）があります。海外語学研修としては、リジャイナ大学（カナダ）、陝西師範大学（中国）、ハワイ大学（アメリカ）があり、認定校派遣留学先として前記のセント・ノーバート大学もあります。これからも、留学生の交流



をますます活発化していくために、さまざまな施策を打っていく予定です。

以上のような活動をする3つの室が、相互乗り入れ的に機能していくことが大切で、国際交流センターに係る教職員全員が、その持っている力を十二分に発揮できるような形で運営を行っていきたいと考えています。

国際化の時代に、国際感覚と語学力を身に付けた人間を育成することは、今日の大学の重要な役割であり、都留文科大学の伝統と特色を活かした国際交流の在り方を探究しながら、より良いものにしていき、学生の皆さんの期待に応えていきたいと思っています。今後とも国際交流センターに対するご理解とご協力をお願い申し上げます。



国際交流センターの教職員

講演会だより

2013年度 国文学科 主催 春季講演会 藤原克己先生

「徒然草の思想—閑居と貧しさについて—」

2013年度国文学科春季講演会は、東京大学の藤原克己先生をお迎えして、「徒然草の思想—「閑居」と「貧しさ」について—」と題し6月5日におこなわれました。藤原先生は平安朝文学が御専門であり、菅原道真を中心とする平安朝漢文学をご自身の研究の軸としながら、漢文学がいかに深く『源氏物語』などの仮名文学や古今集歌に影響を与えているか、またそれら平安朝漢詩文と古今集歌のもつ詩的本質や普遍性とは如何なるものか究明されてきました。その先生が、今回はぜひ学生たちに『徒然草』を通して語りたいとのことで、どのようなお話が伺えるのか楽しみにしていました。

御講演は『徒然草』の中で、貧しさの意義について語る第十八段の丁寧な読みから始まりました。何も持たない境地をよしとする、この章段との対照で続けて取り上げられたのが第二百十七段。ある「大福長者」(＝大金持ち)が登場し、富を蓄えたいならば「人間常住」とみなして仮にも無常を感じず、蓄えた富を欲望の成就のために使うな、お金があれば所願叶わずとも心は安泰だと説きます。



会場の様子

これらは、作者兼好が実在した人物の言葉をそのまま写し取ったものとみるのが通説なのですが、そうではないことを、『莊子』の文言を振っていることなど指摘しながら、先生はまず実証的に検証されました。平安後期から鎌倉時代にかけて、貨幣経済が広く日本全体に浸透し進展する、それに伴ってまったく新しいタイプの人間——何か現実的具体的な欲求を満たすためではなく、ただひたすら貨幣のために貨幣を貯める人間——が登場してくるわけですが、作者兼好はそのことに目を見張っているのであって、そうした人間類型の言葉としてこれは兼好が仮構したものであろう、とあざやかに読み解かれました。しかしこの「大福長者」の言葉は、『徒然草』の他の章段での兼好の言葉と鋭く対立する。兼好は「無常」ゆえに今ただちに生きよと、生きていることのうちに備わっている喜びを大切にせよと繰り返し言ってきたのであって、これに対して「大福長者」は、「人間常住」と思えと説いて今を生きることを無限に先送りし、貨幣を蓄えることに夢中になるのであるから。ここに我々は、

貨幣経済に伴って生じた価値転倒に対する痛烈な批判、作者兼好のアイロニカルな人間観察の眼を認めることができよう、というのが講演会のお話の前半でした。

続けて先生は、『論語』、プラトン『ゴルギアス』、マルクス『経済学・哲



学草稿』、フロム『生きるということ』、マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の経済』等々、古今東西の文献を取り上げられ、中世の兼好の考えることが、古来さまざまな人間の考えてきたことと響きあうこと、そのようにして先生ご自身が古典と対話し続けてきた、その方法と楽しみとを、実にいきいきとした語り口で示してくださいました。人生を内的に充実させることを大切にする「清貧に生きる」という価値観を、貨幣経済の進展の一方で古代の知識人は持ち続けた、その伝統の上に兼好もいるわけだけれども、およそ文学というものは、社会や人間を観察しつつ、それとはまた別の価値軸・生き方を提案してゆくべきものではないのか。もとより現代社会特有の貧困の問題に対して、古来の「清貧」の思想は無力であるのかもしれないけれども、不断に古典と対話しながら現代の問題とつなげて考えてほしい、自分自身の人生をいかに豊かに生きるかを考えてほしいという先生の思いが、穏やかにかつ情熱的に伝わってくる御講演でした。藤原先生、本当にありがとうございました。

(国文学科准教授 長瀬由美)

講演会だより

比較文化学科 主催

比較文化学科 創設20周年 記念シンポジウム・式典

比較文化学科が、都留文科大学の5番目の学科として創設され、第1期生を迎えたのは、1993年4月のことでした。当初は、学生定員1学年80人、教員は10名でスタートした「比文」も、次第に規模を拡大し、現在では1学年120人、教員も12名体制になっています。

早いもので20回目の年度末を迎えた去る3月16日（土）に、記念シンポジウムと式典を開催しました。学科としては、この行事を、単に20周年を祝うのではなく、この間の学科としての教育・研究への取り組みを振り返り、比較文化という方法のさらなる可能性をさぐることで、学科の今後を考えるための糧にしようと考えていました。

当日は、全教員がそれぞれの分野・専門から統一テーマにアプローチした記念論集『せめぎあう記憶』（本学報巻末「本ぶんだい堂」参照）を題材に、お2人のコメンテーターをお呼びして、活発な議論が交わされました。元比較文化学科教授で現在は横浜国立大学で教えていらっしゃる大門正克さん、2010年に定年退職された名誉教授の笠原十九司さんのお2人から、「祝辞」ではなく、個々の論考が「比較」「記憶」「構築」とどう向き合っているのかについて、辛口のコメントをいただき、比較文化研究の魅力と困難につい

て考え直す素晴らしい機会になりました。両先生には、あらためて感謝申し上げる次第です。

会場には、第1期生から現役まで50人以上の卒業生・学生・院生・その他関係者が集まり、熱心に耳を傾けてくれました。久しぶりに学問に触れた何人もの卒業生が、「難しかったけど、また勉強したくなりました」「比文で学んだことが今の私の支えになっています」と言ってくれたことには、大いに励まされました。「自己点検」のためにも、卒業生からフィードバックを得る仕組みを作り、この学科で学ぶこと／学んだことの意味を、受験生を含め、より多くの人に発信する必要性を痛感しました。

午後1時から4時過ぎまでのシンポジウムに続いて、記念式典が執り行われました。西室理事長からは、比較文化研究の広がりとそれを束ねてきた学科の努力に対して、お褒め・労い・



学科長挨拶（左）、理事長（右上）、学長（右下）からのご祝辞

お祝いの言葉をいただき、加藤学長からは、その「束ね方」について、一層の工夫を重ねるよう、学科の将来を見越したご忠告をいただきました。それを受けとめ、学科の教員側が30周年に向けて精進するという誓いを新たにしたところで、閉会となりました。

その後のレセプションでは、卒業生の多様な生き方、回り道を無駄だとは思えないタフで柔軟な感性に、驚き、喜び、勇気づけられました。「すぐに役に立つことを」という圧力に流されず、「実学」ではない学問の力を示し続けるようエールをもらった、楽しい夕べでした。

（比較文化学科教授・20周年
記念事業担当 大森一輝）



多くの卒業生でにぎわう会場

講演会だより

2013年度：地域交流研究センター・地域教育相談室 第1回公開講座

「スポーツと育てるカウンセリング～ロンドン
で見たチームJAPANの絆の強さ～」

大阪体育大学教授 土屋 裕睦 先生

体罰問題、次回のオリンピック競技や2020年の開催都市の選考など、スポーツをめぐる様々な話題がマスコミに取り上げられている中、5月24日（金）にスポーツカウンセリングのパイオニア土屋裕睦先生（大阪体育大学教授）を講師にお迎えして第1回公開講座を開催致しました。

まず、土屋先生は実際に見たロンドンオリンピックでの卓球女子団体やフェンシング団体、水泳や女子バレーボールなどの活躍を例に挙げながら、チームワークの重要性について熱く語られました。次に、ご自身が実際に関わった指導者に不満を抱える選手やここぞという場で勝てない選手のカウンセリング、大会直前にエースをけがで欠きピンチに陥った名門バスケットチーム（大学女子）への介入などを紹介、その方法の一つであるメンタルトレーニングについ

ては、実習を交えてわかりやすく教えて頂きました。「メンタル」を抽象的に漠然と捉えるのではなく、心理的なスキルとして明確化し、それをトレーニングしていく。心理的スキルの例は、「競技意欲（やる気、闘争心、忍耐力）」「精神の安定（リラックス）・集中」「自信」「作戦能力（予測力・決断力）」「協調性（チームワーク）」で、いずれもトレーニングにより向上可能であるという主張は、説得力がありました。また、選手が事実の不合理な受け止め方の修正や「ねばならない」から「だったらいいな」に考え方を転換していくプロセスにカウンセリングが有効であること、これまで自己啓発や学級経営に活用されてきた構成的グループエンカウンターはスポーツのチームビルディングにも効果があるという主張も、事例の確かな裏付けがあり、なるほどと納得できまし



た。

参加者は約70名、学校や地域でスポーツ指導をしている方々や競技者自身、学校教育関係者、スポーツをしている子を持つ保護者など様々で、土屋先生のお話はスポーツだけでなく学級経営や子育てなど様々な場面で活用できるという感想が寄せられました。

伝統があるからこそ新しい考え方に転換できないジレンマに苦しむ競技や集団もあると思います。今回の講演がそんな現状脱却のヒントとなったらうれしい限りです。

（地域交流研究センター・地域教育相談室 品田笑子）



会場の様子



メンタルトレーニング実習

〈講師紹介〉

土屋 裕睦（つちや ひろのぶ）

大阪体育大学教授。アスリートやチームのサポートにメンタルトレーニングや「育てるカウンセリング」を活用する研究と実践を長年続けてこられた。その知識と経験を活かし、日本オリンピック委員会（JOC）科学サポート部門員として、北京、ロンドンのオリンピックにも関わられた。本年度から、文部科学省スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクホース）委員を務められている。

文大だより

平成24年度 都留文科大学卒業式

平成25年3月22日（金）、午前11時より都の杜うぐいすホール（大ホール）にて、平成24年度 都留文科大学卒業式を開催いたしました。当日はそれぞれの明るい将来を示すかのような澄み渡った青空が広がるなか、754名（学部、専攻科、大学院を含む）がそれぞれの道へ旅立ちました。隣の小ホールに、卒業式の様子を中継しましたが、会場は優しい眼差しでスクリーンを見守る保護者のみなさんで一杯になっていました。

式典は理事長の「本学での4年間の大学生活を経て、見違えるほどたくましく立派に成長され、大変喜ばしい」との挨拶から始まり、その後、学長より卒業証書・修了証書・学位記などが各学科の代表者に授与されました。学長は卒業生・修了生を送ることばでは、「若者の柔軟な発想と行動こそが、新しい時代を創造する推進力となり、みなさんは次の時代を担うかけがえのない存在である」と述べられました。

そして最後に、卒業生代表の国文学科の山下万里子さんより「卒業生のことば」として“本学で身につけた力や都留市で経験した様々なこと、そして、出会った全ての方への感謝”が語られ、会場からは



学位記授与



会場の様子

大きな拍手が湧き上がりました。本学の吹奏楽部並びに合唱団による学生歌「花のかげ」が演奏されるなか、式は無事終了いたしました。

平成24年度卒業生・
修了者数

■文学部		■専攻科 文学専攻科	
初等教育学科	206名	教育学専攻	10名
国文学科	131名	■大学院 文学専攻科	
英文学科	138名	国文学専攻	4名
社会学科		英語英米文学専攻	2名
現代社会専攻	88名	社会学地域社会研究専攻	2名
環境・コミュニティ創造専攻	57名	比較文化学科	4名
比較文化学科	115名	臨床教育実践学	5名

平成25年度
入学試験状況

平成25年度 推薦入学試験状況			
学 科 名		受験者数	合格者数
初等教育学科		213	95
初等教育学科（芸術体育系・自然環境科学系）		42	19
国文学科		192	68
英文学科		101	49
社会学科	現代社会専攻	112	55
	環境・コミュニティ創造専攻	53	32
社会学科環境・コミュニティ創造専攻（活動評価型推薦）		17	10
比較文化学科		81	50

			平成25年度 前期日程入学試験状況			平成25年度 中期日程入学試験状況		
平成25年度	編入学試験状況		学 科 名	受験者数	合格者数	学 科 名	受験者数	合格者数
学 科 名	受験者数	合格者数	初等教育学科	86	38	初等教育学科	237	80
初等教育学科	18	9	国文学科	99	38	国文学科	468	131
国文学科	16	5	英文学科	92	52	英文学科	307	112
英文学科	17	8	社会学科	50	37	社会学科	130	47
社会学科	10	4	現代社会専攻	46	27	現代社会専攻	104	30
比較文学科	14	5	環境・コミュニティ創造専攻	111	67	環境・コミュニティ創造専攻	236	86

文大だより

平成24年度学生表彰制度による表彰

課外活動において特に顕著な成績を挙げたと認められる学生や団体、また、社会活動において社会的に高い評価を受けたと認められる学生や団体に対する学生表彰制度により、2名及び3団体が表彰されました。



表彰の様子

被表彰者名	概 要
陸上競技部 北村 千聖	日本学生陸上競技個人選手権大会400m 4位入賞。 天皇賜盃 第78回日本学生陸上競技対校選手権大会 4×400m 3位入賞他。
佐々木 大祐	学生チャレンジプロジェクトに採用され「本大学紹介VTR」の制作を行い、これをベースに各種行事及びイベントを映像で記録・編集し、本大学のPRに貢献した。
合唱団	全日本合唱コンクール全国大会 大学部門 4年連続金賞受賞。
吹奏楽部	全日本アンサンブルコンテスト全国大会 3年連続出場。今年度は山梨県大会、西関東大会で金賞受賞。
管弦楽団	市内の合唱団、管弦楽団とともに「第九交響曲」等の演奏会へ出場。また保育園、介護施設等に出向いて演奏する等、学内外に関わらず広く音楽活動を行なった。

第44回つる子どもまつり開催

5月19日(日)、本学を会場として第44回つるこどもまつりが開催されました。

子どもが想像力や創造力をはたらかせる場にしようという目標のもと、各ブースに分かれた「くに企画」で工作をしたりお話を聞いたり、お昼にはお弁当を食べながら演奏を聴き、午後はグラウンドでゲームを行いました。天気にも恵まれ、子どもたちは思い切り楽しんでいました。

大学生のお兄さん・お姉さんに手伝ってもらいながら工作をしました。他にもたくさんの教室で、工夫された「くに企画」を子どもたちは楽しんでいました。



工作の様子

文大だより

学生サークル トリニティ主催
第2回つる白熱教室

原田謙介氏講演会



「第2回つる白熱教室 原田謙介氏講演会」

4月26日、「第2回つる白熱教室 原田謙介氏講演会」を行いました。「つる白熱教室」という名で講演会を行うようになって2回目でしたが、それ以前にも、横田滋、早紀江さん夫妻など様々な人を招いて講演会を行ってきました。

今回お招きした原田謙介さんは、現在27歳でNPO法人YouthCreateの代表を務められています。YouthCreateは「若者と政治をつなぐ」をコンセプトに、若い世代の投票率向上を目指して活動している団体です。

その代表である原田さんに講演をしていただくことに、我々Trinityは大きな意義を見出していました。若者の政治離れが叫ばれる世の中で、まさに大学生から考えていかなければならない問題だからです。政治、選挙といった分野は、大学生にとって普段あまり向き合うことの無いものだと思います。大学内でこうした講演会も多くあるわけではありません。だから学生の皆さんには今回の講演会を機会に、自分で興味を持って考え始めるきっかけとなればと

思っていました。

講演会当日は、貴重なお話を伺うことができました。なかでも、若者の投票率は必ずしも低下しているわけではないという事実は驚きでした。また、質疑応答の時間では、参加者の方々の積極的な質問があり、意識の高さを感じました。講演自体もわかりやすい内容で、きっかけとしては最高のものだったのではないかと思います。今後、今回参加してくれた人が、ニュースで流れてくる政治や社会の問題をより深く考えるようになってくれたら、意味のある講演会だったのではないかと思います。

さらに、この講演会は地域の方々の協力なしでは成し得ないものでした。当日の聴きに来てくださった人の中にも、地域の方々がいらっしゃいました。まだまだ未熟なサークルではありますが、少しずつ地域、大学、学生の三位一体（Trinity）を実現できて来ているのではと思います。

最後になりましたが、今回講演をしてくださった原田謙介さん、並びにご協力いただいた地域の皆様、そして大学の皆様に深く御礼申し上げます。

（実行委員長 比較文科学科 3年 築地貴弘）



講師プロフィール

原田 謙介

1986年5月10日岡山県生まれ。中高はサッカーに明け暮れる。1年の浪人後、東大文1に入学。同時に国会議員事務所インターン開始。2008年4月、同世代の政治への関心の薄さ、未来の見えない政治に問題意識を持ち、20代の投票率を上げるため、学生団体ivoteを結成。現在はNPO法人YouthCreateの代表として「政治と若者をつなぐ」を目標として活動中。

文大だより

公務員の仕事見学バスツアー

4月24日（水）に公務員を目指す学生を対象とした、「公務員の仕事見学バスツアー」が行われました。今年度より新たに企画されたバスツアーは、午前「都留市役所」、午後「山梨県庁」「甲府地方裁判所」の2コースに分かれ、合計27名の学生が参加しました。

「都留市役所」「山梨県庁」においては、本学卒業生でもある若手職員を訪問し、公務員としての心構えや試験対策方法など、大変参考になるお話を伺うことができました。また、「甲府地方裁判所」では、若手職員による座談会、法廷見学など、貴重な体験をすることができました。採用試験へ向けての意識の向上を図ることができたことと思います。



都留市役所での様子



甲府地方裁判所での様子

同窓生との模擬面接試験体験会

5月11日（土）に教員を目指す学生を対象とした模擬面接体験会が開催され、約120名の学生が参加しました。この体験会では本学卒業生が全国各地より参集し、講師としてご指導いただきました。

第1部では代表学生が集団面接・集団討論・模擬授業を行い、その他の学生が見学できる形式で行われました。各分野において担当面接官より講評をいただき、きめ細かい指導が行われました。

第2部では地域ごとに教室に分かれ、教員採用試験におけるアドバイスや集団面接等の体験が行われました。参加した学生は熱心に取り組み、今後の採用試験に向けて良い刺激になったようです。ご協力いただきました同窓会の講師の皆様に感謝申し上げます。



会場の様子



第一部 模擬授業の様子

文大だより

佐野夢加かけっこ教室

子供達に“かけっこ”の楽しさを体験してもらうことを趣旨とした「佐野夢加かけっこ教室」が5月9日から6月13日の毎週木曜日、計6回に渡り、市民総合体育館を会場として開催されました。小学校1～3年生が集まり、本学OGでオリンピック競技大会2012年ロンドン大会女子4×100mリレー日本代表の佐野夢加さんや本学教授で日本陸連ナショナルコーチの麻場一徳先生とともに“かけっこ”を大いに楽しみました。

5月23日に開催された教室では、前半はキョンスースタイルなどのランニングで体をほぐし、後半はカードを使ったゲームで楽しみながら競走しました。

子ども達はみんなキラキラ輝く笑顔をしており、“かけっこ”の楽しさが芽生えたようです。



ラン



ラン



ラン♪

オープンキャンパス

夏季オープンキャンパス

平成25年7月20日（土） 午前9時～午後3時

【主な内容】 大学概要説明会／学科別説明会／学科別特別講義／卒業後の進路と就職状況の説明／留学制度説明会／教職員及び学生による進学相談／学生生活相談／学生ガイドによるキャンパスツアー／学食・お弁当体験／体育会、文化会等の活動紹介 など

秋季オープンキャンパス

平成25年10月14日（月）～25日（金）（水曜・土曜・日曜を除く）

午前9時10分～午後4時20分

【主な内容】 公開授業体験／学生ガイドによるキャンパスツアー／進学相談／学食体験 など



【申込方法】 本学HPもしくはFAXにより申込みください。

HP：http://www.tsuru.ac.jp/

FAX：0554-43-4347

【問合せ先】 総務課 総務企画担当 0554-43-4341（内線210）

文大だより

名誉教授の称号授与

平成24年度をもって定年退職された次の3名の教員に対し、これまでの研究活動並びに学内活動などの功績を称え、名誉教授の称号を授与いたしました。

後藤道夫氏（初等教育学科教授、32年の長きに渡り本学で研究・教育に取り組み多くの優れた著書を執筆。また、企画室長、情報センター運営委員長、常任委員図書館・情報センター長などを歴任）

楠元六男氏（国文学科教授、教育組織審議委員会委員長、就職委員会委員長などを歴任。34年の長きに渡り本学で研究・教育に取り組み、近世文学・俳文学の分野で貢献。都留市とも関係の深い松尾芭蕉の研究者としても有名。）

千葉立也氏（社会学科教授、15年間に渡り本学で研究・教育に取り組み、フィールドワークを得意とし、実際に学生と一緒に都留市を歩き・感じ・調査するという手法を用いて、地域の魅力を学生達に再発見させた。地域づくりの視点から、都留市市民活動推進委員会委員長、都留市環境基本条例策定懇話会委員長などを務め、都留市へも貢献。また、社会学科主任。社会学科再編準備室委員長などを歴任）



称号授与の様子

優れた多くの学生を輩出するなど、本学発展のため多大な貢献を賜り、誠に有難うございました。

人事異動

平成25年4月1日付けの人事異動は次のとおりです。

氏名の前が移動先、（ ）内は前職です。

採用

初等教育学科講師 岡野恵司
国文学科准教授 加藤敦子
社会学科教授 田中里美
情報センター 特任准教授 黒崎茂樹
国際交流センター 特任准教授 山口真理子
総務課財務担当 都倉一憲

学生課主事 渡邊理恵（学びのまちづくり課主事）

転出

学びのまちづくり課主幹 柴田 純子（総務課主幹）
行政管理課主査 小俣 昌寛（総務課主査）
福祉課主査 相川 薫（総務課主査）

昇任

社会学科教授 平林 祐子（社会学科准教授）
比較文学学科准教授 内山 史子（比較文化学科講師）
地域交流研究センター特任教授 北垣 憲仁（地域交流研究センター特任准教授）
総務課事務局次長（兼）総務課長 重原 達也（総務課長）
総務課主幹 吉田 時代（総務課副主幹）
学生課副主幹 志村 高男（学生課主査）

退職

後藤 道夫（初等教育学科教授）
鉦守 信彦（初等教育学科教授）
楠元 六男（国文学科教授）
千葉 立也（社会学科教授）
田中 夏子（社会学科教授）
村上 研一（社会学科准教授）
泉 桂子（社会学科准教授）
重富 恵子（比較文化学科講師）
小俣 昭也（学生課主幹）
都倉 一憲（総務課技能員）

転入

総務課主査 髯櫛美咲（政策形成課主査）
学生課主査 田代 崇（市民生活課主査）
総務課副主査 近藤秀明（税務課副主査）

◆お詫びと訂正◆

都留文科大学報第121号に掲載した「卒業論文・研究論文・修士論文一覧」に誤りがございましたので、訂正するとともにお詫び申し上げます。

正 誤 表

研究論文・修士論文－文学専攻科・大学院文学研究

文学専攻科	35 頁	正	今井隆先生	誤	浜谷エロイス先生
-------	------	---	-------	---	----------

編集後記

同じ風景
同じ声

佐藤明浩

『学報』第122号をお届けします。この文章を書いている5月、キャンパスは、目に鮮やかな、みずみずしい緑につつまれます。1年生の大学生活も本格始動し、その新鮮さにこちらもリフレッシュされ、活力を分けてもらえるようであり、私の最も好きな季節です。今年もホトトギスがさかんに鳴いています。新入生のなかには、その声を知らないという人も少なくないようですが、都留では存分に鳴いてくれますので、ぜひ聞き取ってほしいと思

ますーテッペンカケタカともトッキョキョカキョクとも写される高い声ですー。今日はセミの声を聞きました。おそらくハルゼミでしょう。子どものころは図鑑のなかでしか知らなかったこのセミの声を都留の地に来て初めて聞いたときは、感激したものでした。

3月に卒業生を送り出し、4月に新入生を迎えました。3月に8人の専任教員が退職され、4月に5人の先生方を迎えました。こうして年ごとに人は入れ替わっていきます。一方、同じ風景、同じ声が、季節ごと、キャンパスにめぐってきますー建物の数は変わりますし、鳥や虫たちもじつは入れ替わっているのしょうけれどもー。抱く考えや感情や志は人それぞれに違うのしょうが、教室から仕事部屋から同じ風景を見、同じ声を聞いています。また、時をこえて、文大でどれだけ多くの人たちが、同じ風景を見、同じ声を聞いたのしょうか。そのようにして多くの人たちが目と耳をとおしてつながっているのです。それはとてもすばらしいことのように、ほとんど奇跡的と言ってもいいことのように思われます。

新任の教職員、新入の学生のみなさんを、あらためて心から歓迎したいと思います。また、この年度、初めの号に執筆していただいた方々、この号も愛読していただいたみなさんに、厚くお礼を申し上げます。



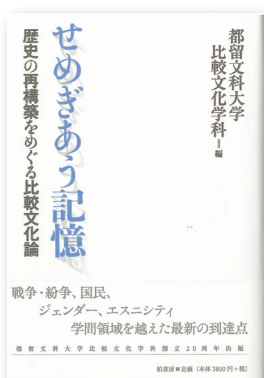
本 ぶんだい堂



都留文科大学
ジェンダー研究プログラム
7周年記念出版編集委員会／編

論創社 3,000円＋税

ジェンダーが拓く 共生社会



都留文科大学比較文化学科／編

柏書房 3,800円＋税

せめぎあう記憶
歴史の再構築をめぐる比較文化論



渡辺 豊博／編

春風社 1,500円＋税

◇わたなべとよひろ 社会学科教授

失敗しないNPO
グラウンドタワー三島の20年とイギリスに学ぶ